

京都大学学士山岳会総会

講演会

2022年5月28日 楽友会館

演者：上尾 庄一郎、西山 考、松林 公蔵、幸島 司郎

演者：上尾庄一郎

演者：上尾 庄一郎

1982年チベット高原学術登山隊

カンペンチン峰(7281m)初登頂

隊長	近藤 良夫 (57歳)	中国側隊員
副隊長	上尾 庄一郎 (44歳)	連絡官 張 俊岩 (53歳)
秘書長	西山 考 (43歳)	コック タットー (47歳)
通訳	陳 介臣 (39歳)	高所協力員 4名
報道	斎藤 清明 (36歳)	
登攀隊長	森本 陸世 (33歳)	
医師	松林 公蔵 (31歳)	
隊員	牛田 一成 (27歳)	
隊員	幸島 司郎 (26歳)	
隊員	人見 五郎 (26歳)	
隊員	森戸 隆男 (25歳)	
隊員	中川 潔 (24歳)	
隊員	近藤 裕史 (24歳)	

公式報告書

カンペンチン

京都大学学士山岳会

カンペンチン

京都大学学士山岳会

登攀隊員全員が登頂に成功！

京都大学学士山岳会創立五十周年の事業として、1982年4月、ヒマラヤ山脈北面に位置するチベット高原の未踏峰カンペンチン(康彭欽、7281メートル)に挑んだ遠征隊は、見事10人の登攀隊員全員が頂上を極めた。これはその正式報告書である。

毎日新聞社

定価6700円

毎日新聞社

縦書きの報告書は、かねてより世界の登山界の注目を集めておりました。このたび、日本の京都大学学士山岳会は、果敢にも未踏峰であるこの山に挑み、初登頂に成功。伝説ある京都大学の登山史に輝く一ページを飾りました。中国の古い諺に「遠路難行、近道成功」という諺があり、その意味は、細めて取り組み、しかも競争をかなす、ということ。この今回の成功はまさにこの諺どおりで、私は、この素晴らしい事業に敬服しております。

カンペンチン峰登山中に、京都大学学士山岳会が見せた果敢不屈の精神と、実力のレベルは、細く私達に多くの学ぶべき点の教を授けられました。同時に、日本の伝友と共にこの難問の喜びを分かち合えることこそ、幸せに思っております。(後略)

毎日新聞社

325・328116 7281

ヒマラヤへの道

京都大学学士山岳会の五十年

今西錦司編

ヒマラヤへの道

京都大学学士
山岳会の五十年



写真：カネハシケン

日本の登山史に輝ける足跡 をとどめる山男たちのドラマ

チョゴリザ、ノシヤック、ヤレン・カン、カンベンチンなど、
山仲間たちの夢はヒマラヤへの道をひた走る。今西、桑原、
西尾らによる初登頂の感動と学術探検五十年の軌跡を語る。

中央公論社刊

定価1800円

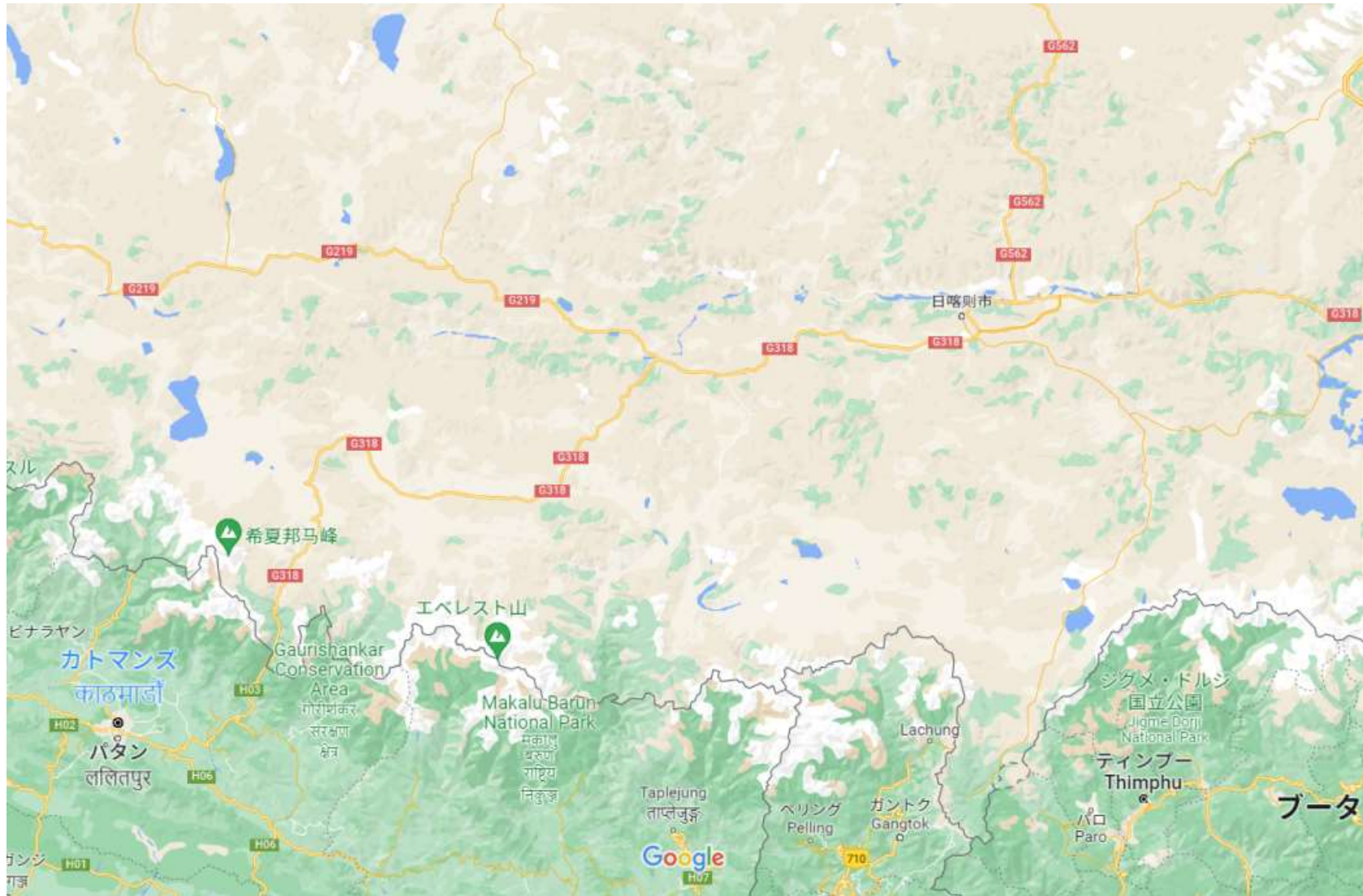
今西錦司編

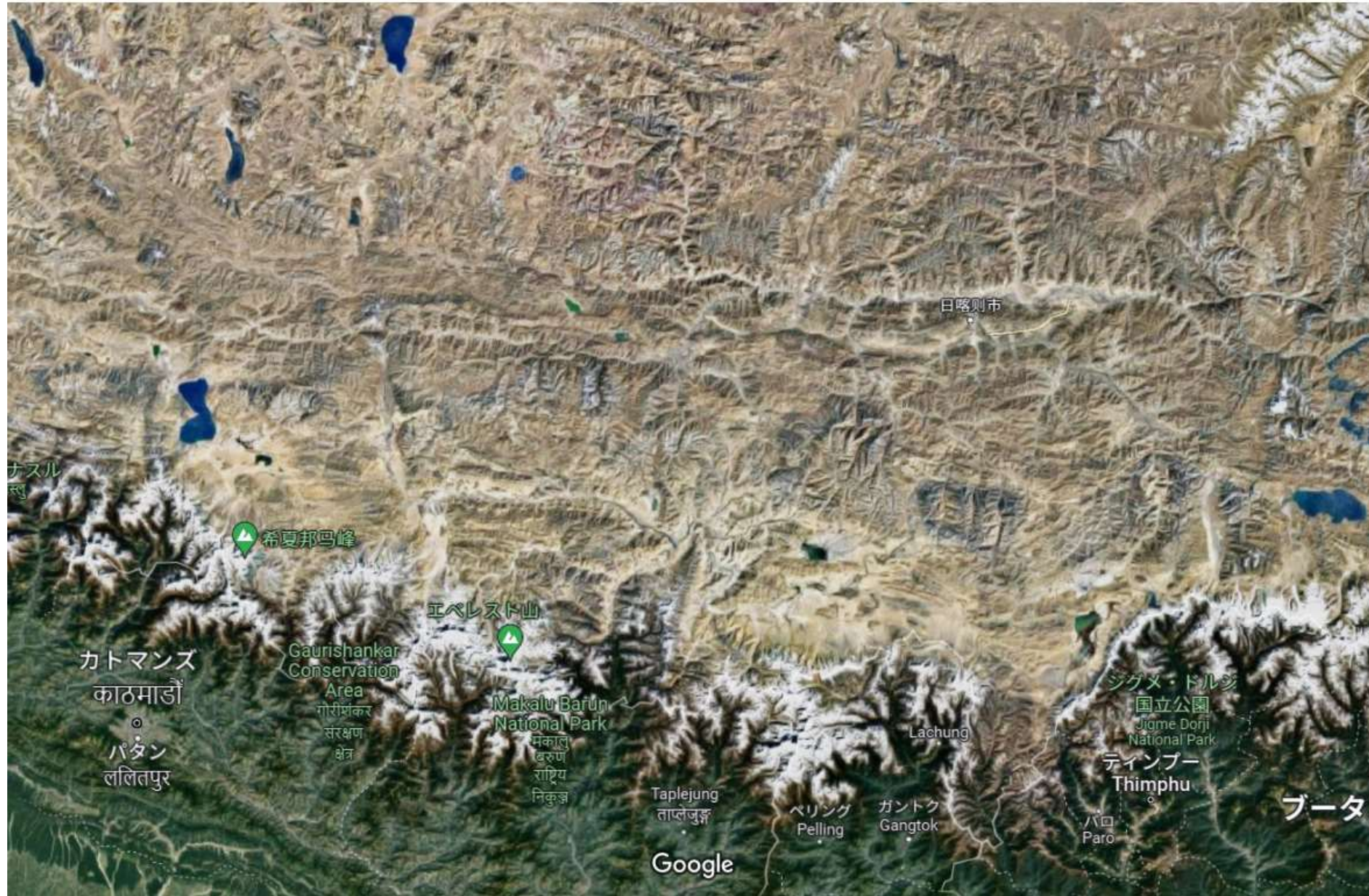
ヒマラヤへの道
今西錦司編
中央公論社刊
定価1800円



ルート図

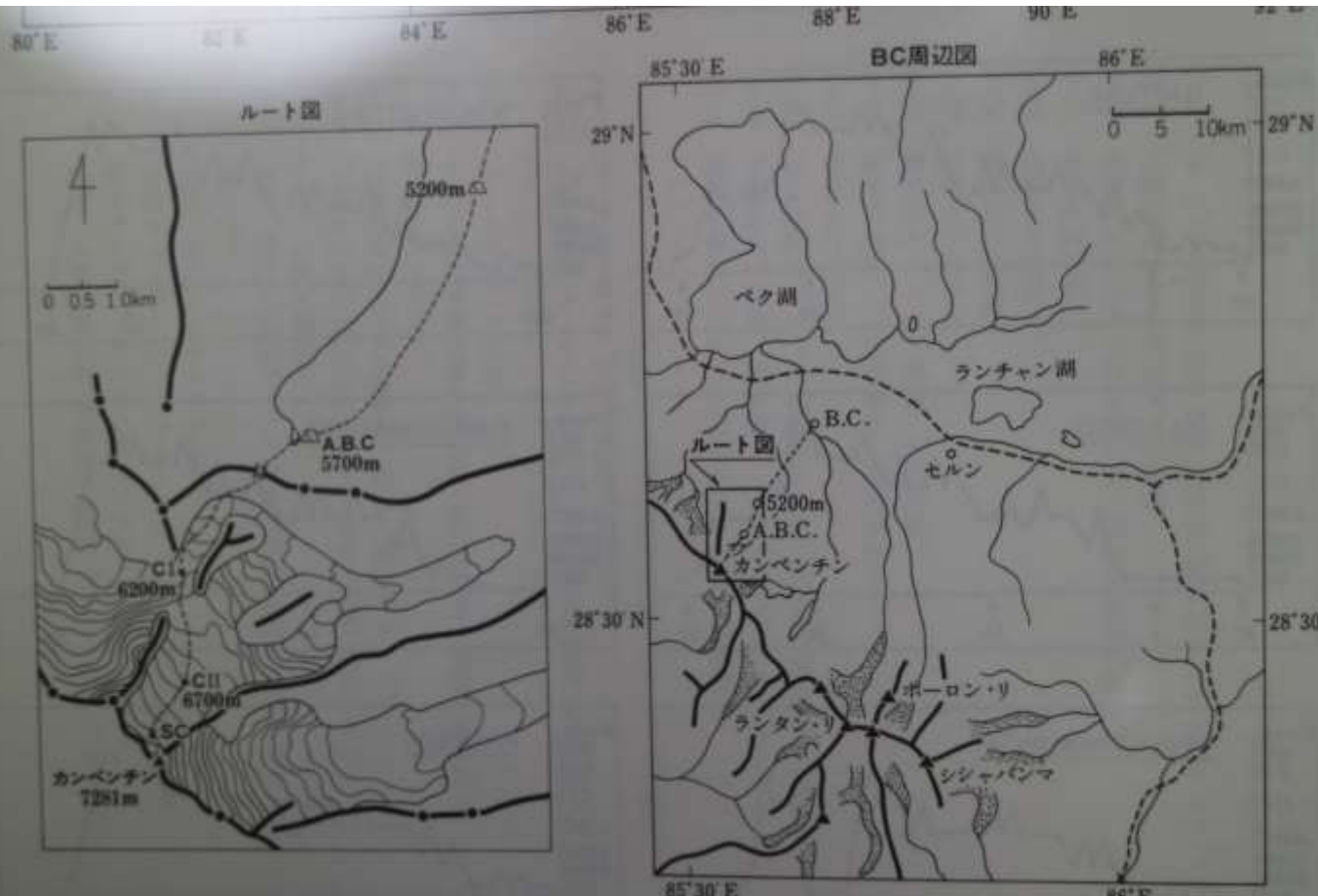
BC周辺図















































演者：西山考

1982 チベット 学術登山隊146



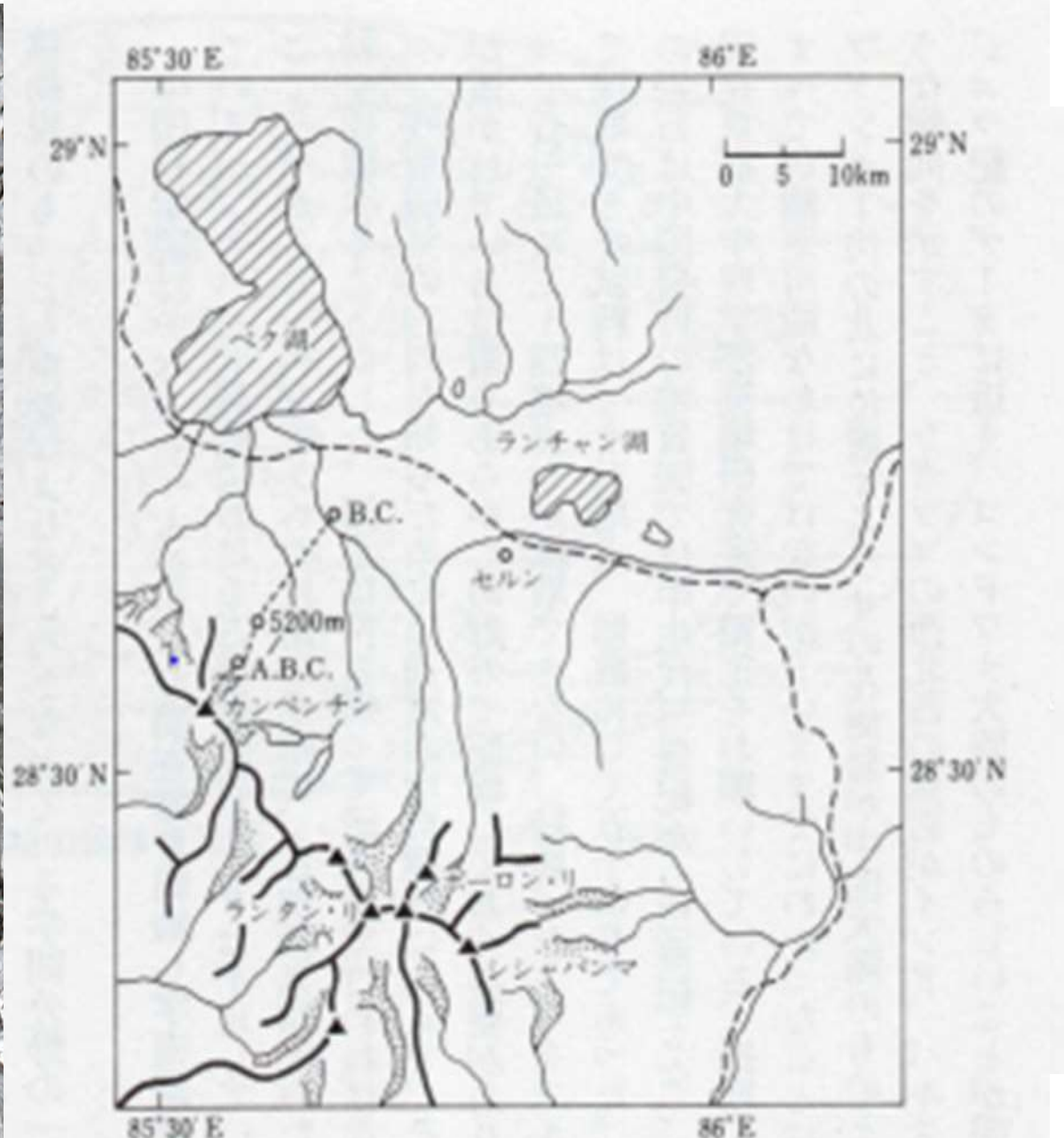
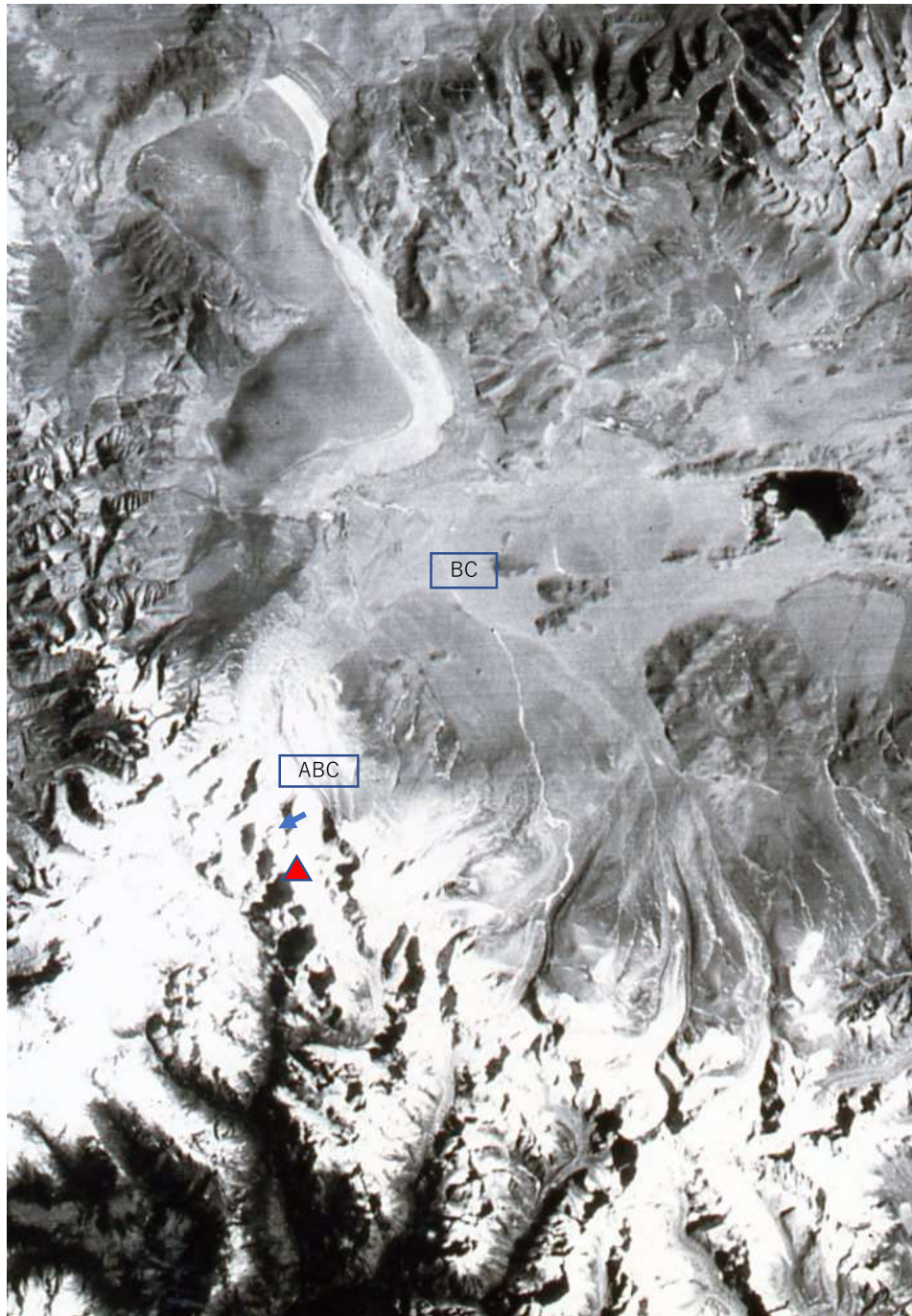
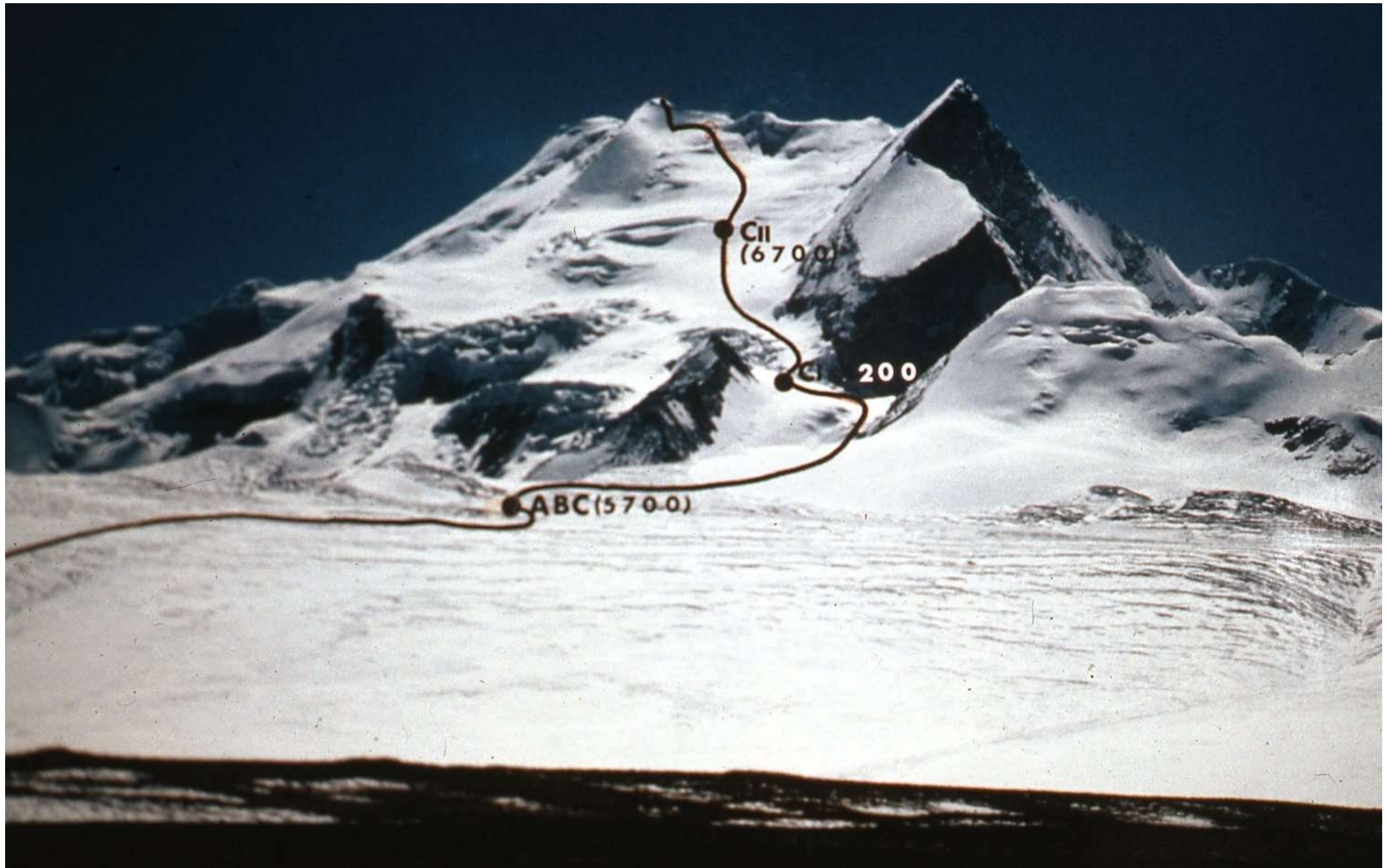


図2 カンベンチン(康彭欽), ベク湖, ランチャン湖周辺の地形



チベット高原学術登山におけるランドサット画像の利

京都大学工学部 助手
工学博士 西山 幸

(京都大学学士山岳会 チベット高原学術登山隊 秘書長)

(財) 日本気象協会
森本 陸 世

(京都大学学士山岳会 チベット高原学術登山隊 登攀隊長)

はじめに

1978年日中友好条約の締結されたのを契機に、日中友好親善関係は急速に緊密の度に加わってきた。山岳界においても中国登山協会と、わが国の各地の山岳団体との交流が始まった。チベット高原やコンロン山脈、天山山脈を訪れることも夢ではなくなった。京都大学学士山岳会でも、チベット高原学術登山を実現すべくいち早く交渉をすすめた。

学術登山の候補地としては、当初ブラマブートラ川とインダス川の源頭にあたる地域を希望したが、中国側の事情もあって登山許可

戦前のスウェンヘディンの探検、戦後の中国科学院の調査に次ぐもので、登山だけでなく学術の面でも宝の山が埋れているところへ出かけることになった。

さて、まだ試登さえ行われたことのない山にどのようにしてルートを見つけるのか、限られた登攀期間(2ヶ月)のあいまを使って、如何に有効に、能率よく学術調査を行うかについて、隊員の間で意見を出し合い、何回も討議を重ねた。文献調査、地図さがしから始まり、湖水調査、高所医学、テントの試作など多岐にわたる問題が含まれていた。これら

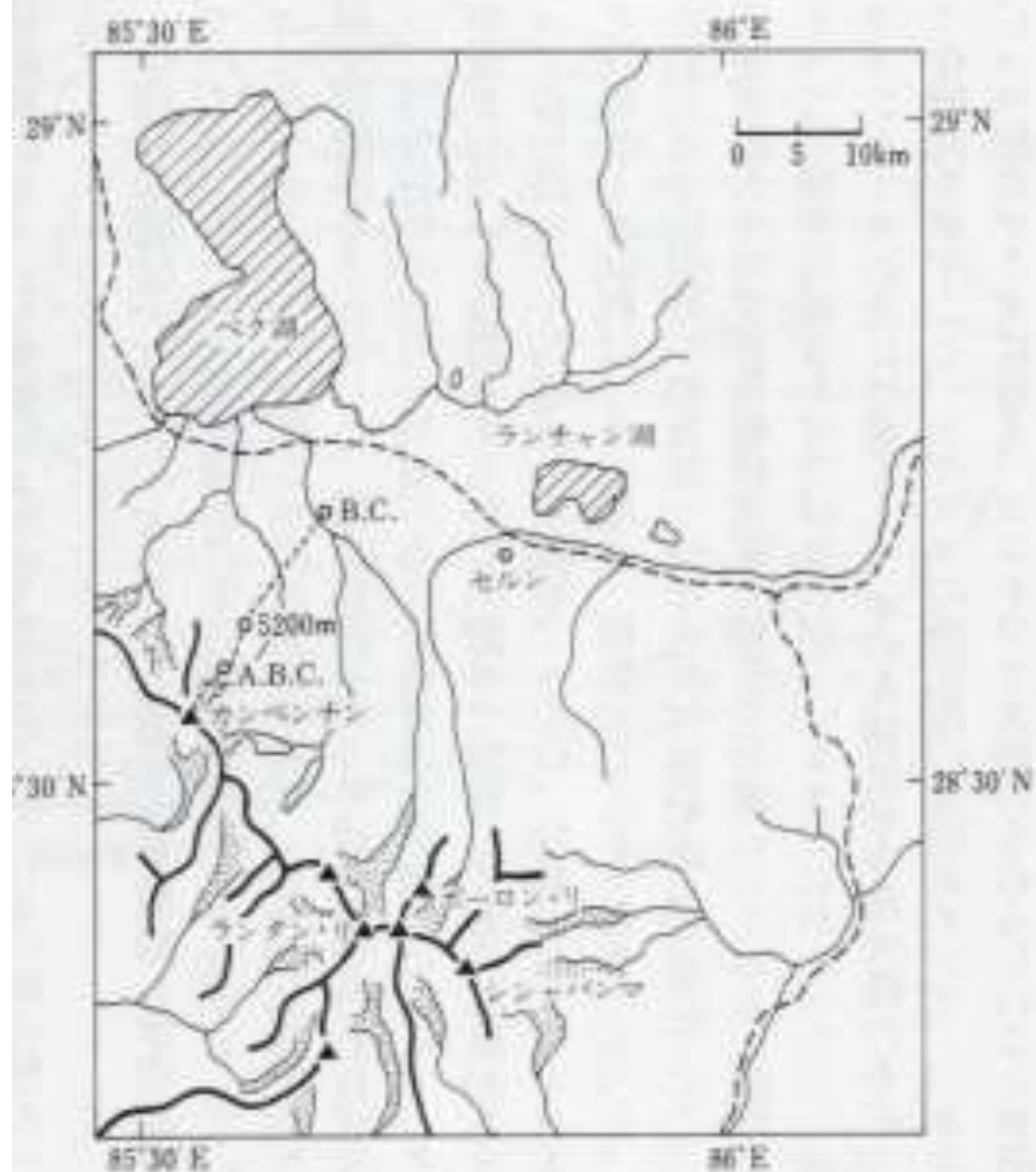
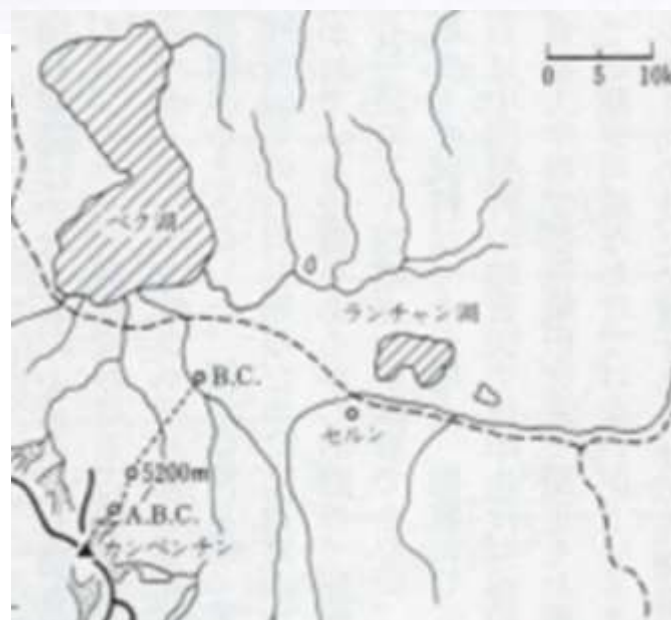


図2 カンベンチン(康彭欽), ベク湖, ランチャン湖周辺の地形







	pH	Na	K	Ca	Mg	HCO ₃ ⁻	CO ₃ ²⁻	Cl	SO ₄ ²⁻	総塩分
湖										
ランチャン湖 (11試料の平均)	9.8	653	85.1	3.3	73.4	1330	353	92.8	22	2610
ベグ湖 1. (82.4.6)	8.5	38	9.4	18.8	34.7	197	2.87	3.2	111	415
ベグ湖 2. (82.4.29)	9.3	392	89.3	1.0	333	1150	105	33.9	1100	3200
ムドクオ湖	7.8	5.7	1.5	51.6	8.1	106	0.31	0.5	77	251
ビワ湖		5.0	1.2		2.5	33.5	0.015		7.5	67
川										
ナベト高原 (15試料の平均)	7.9	6.6	1.2	35.3	6.5	116	0.52	3.9	29.	200
日本の河川 (平均)	6.7	6.6	2.0	10.4	3.6	43	10	7.1	12.0	95
雪										
ナベト高原 (3試料の平均)	7.4	3.4	1.3	34.6	8.3	149	0.55	4.1	21.4	223
温泉										
ラズ	7.1	44	7.2	28.2	3.1	202	0.12	0.5	23	308



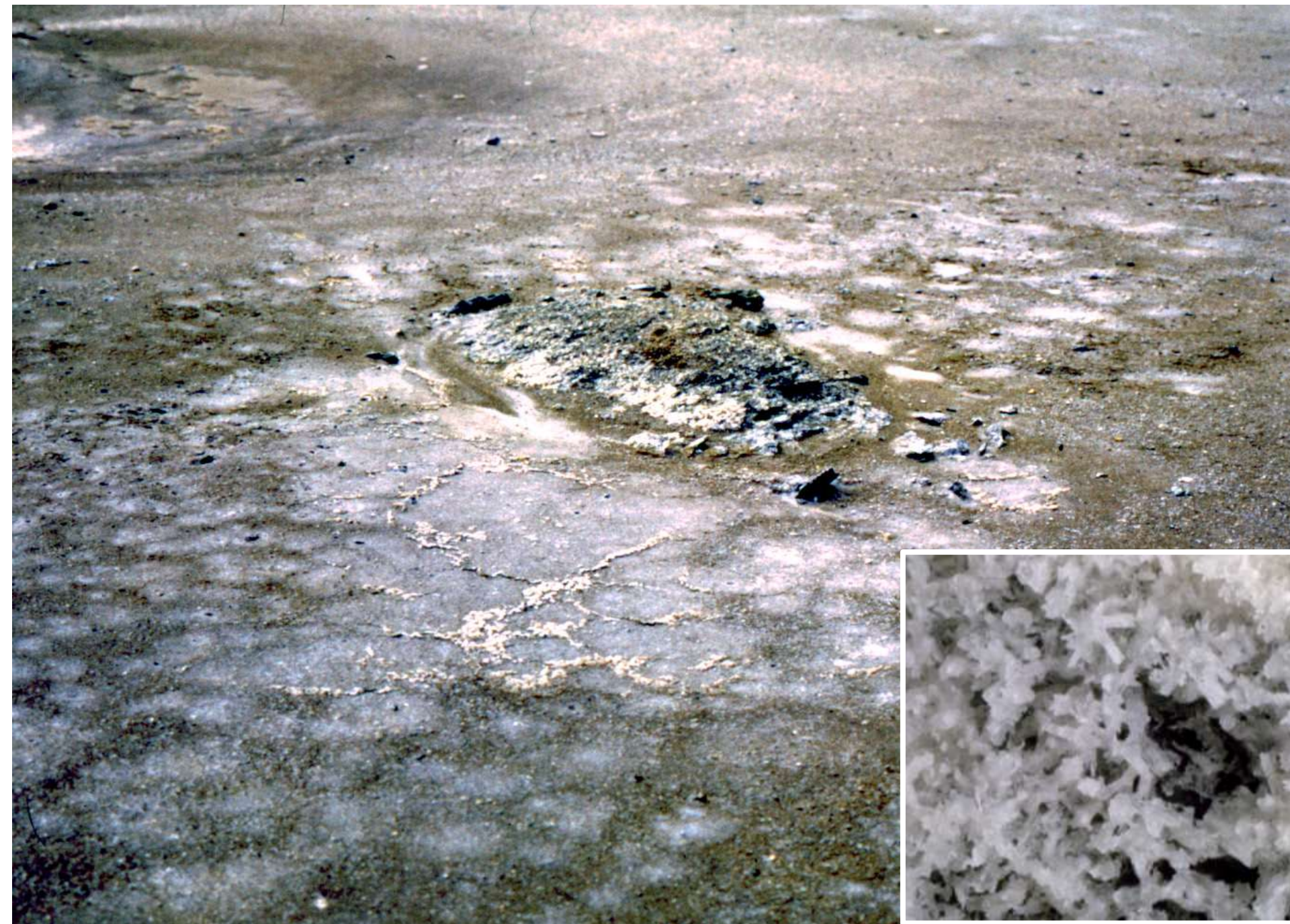




No. 82501-1	Remark
二枚貝(モノテイスの仲間?)と巻貝	▪ Box No. China1
Locality.	▪
Gang Ben Chen 康彭欽 浪強錯	▪
Collector.	▪
Date.	▪
T. Nishiyama	▪
1982. 5.1	Weight:



Antarcticite





三稜石(南極ドライバレー)

ロス湾はスコット隊やアムンゼン隊、白瀬隊が極点へ向けて出発したところです。その一角にドライバレーと呼ばれる露岩地帯があり、激しい風(カタバ風)が定期的に吹いています。そこでは、風食による奇形をした岩石が広く分布しています。三稜石はその代表的なもので、この標本は三稜にはなっていませんが、これぐらい大きな、きれいな標本はなかなか見つかりません。



昭和基地

No. D-Samples			Remark	
Dreikanter(Facetted Pebble) 三稜石			・ 展示標本	
Locality.			・	
タクラマカン砂漠 三十里営房			・	
Collector.	Date.		・	
T.Nishiyama	1985.4.18	・		
		Weight :		

No.			Remark		
	石灰質頁岩 Calcareous shale		▪		
Locality.	チョモランマ頂上(8848m)		▪		
	Chomolungma (Mt. Everest)		▪		
	summit (8848m)		▪		
	1988年 チョモランマ/サガルマータ友好登山隊		▪		
	「北側統括隊長兼医師」 斎藤惇生		▪		
Collector.		Weight:			
	山本宗彦				
Date.	1988.5.5				

